



日船工が独SMMでセミナー、日本のスマートシップ計画紹介



日本のスマートシップ計画を紹介

日船工が独SMMでセミナー、MTI安藤氏が講演

日本船用工業会(日船工)は8日、ドイツ・ハンブルク市で開催中の国際海事展「SMM2016」に合わせて、スマートナビゲーション研究会が進めるプロジェクト「スマートシップアプリケーションプラットフォーム2(SSAP2)」のセミナーを開催した。同研究会の座長であるMTIの安藤英幸氏が講演に立ち、「SSAP2は船のIoT(インターネット・オブ・シングス)サービスの発展や運航サポートのためのオープンプラットフォームの設計と開発を目的としている」とし、プロジェクトの概要と今後の活動方針などを説明した。

スマートナビゲーション研究会は、日本海事協会(NK)と日船工が主催する業界共同プロジェクト(JIP)で、34の企業・団体と9のオブザーバーが協力して「船内LANを適用した高効率航海のためのアプリケーションプラットフォームの開発と国際標準化に関する研究開発」を実施している。船陸間のオープンプラットフォームでは陸上のプラットフォームであるデータシップセンターとSSAP2が連携することで船舶データを共有し、実海域における運航データをもとにした新しいサービスの提供を手助けする。

安藤氏は、船舶データの活用に関して、「(データ収集・分析・解析を行う)サービス会社とオーナーがよく協議し、どのデータを誰に対してどのようにオープンにしていくか決定していかなければならない」と述べた。

同研究会では今後、船陸データ通信に関する標準化活動を計画通り進めていく。

【ハンブルク・廣末繁吹】

[記事一覧に戻る](#)

[この記事印刷する](#)